

麻疹の流行について

麻疹

一般には「はしか」と呼ばれているウイルス性の感染症です。かなり重症のものですが、以前は幼児に自然感染し、自然に免疫を受けていたと考えられてきました。

最近では予防接種が行われ、大流行はあまり見られなくなりました。しかし予防接種率七十%位なのと一回接種では抗体が低下してしまうことから小流行は時々起っています。

感染

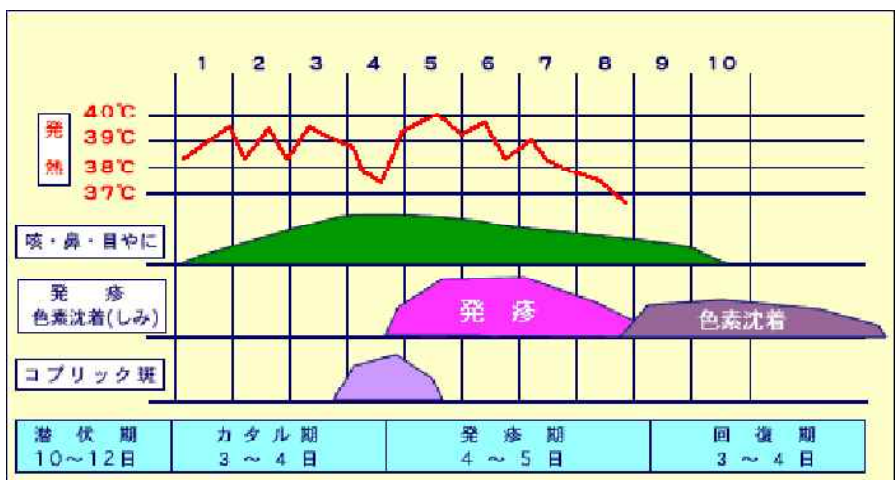
空気感染(飛沫核感染)、飛沫核感染、接触感染といわれ、感染の率は高い。

予防

予防接種のみ



昭和五十三年より一才時一回だけだったが平成十八年度より一才児と入学前の一回となった。



発熱

三十八〜三十九の高熱が三〜四日間続き、いったんやや下がりが気味となりますがその後、発疹の出現とともに、再度三十九〜四十の高熱が数日続きます。(二峰性発熱)

咳

あまり痰のからまない咳ですが、かなり強く咳えます。そのうち、痰がからんでくるようになります。

目やに  
黄色や黄緑色の目やにが数日間続きます。(結膜炎)

発疹

四日目ぐらいから出現することが多く、最初は二〜三mm程度の丸い紅色の発疹が顔面や首に出現します。発疹は胸や腕に拡大し、そのうち背中やお腹、足にも広がります。それくらいになると発疹同士が融合し、色も暗褐色と変化し、徐々に色素沈着(しみ)を残し治っていきます。色素沈着は、一〜二週で消えていきます。

コプリック斑

発疹出現一〜二日前から出ることも多い。ほつぺたの裏側に白色の斑点が多数見られます。ちようど、粉チーズをふりかけたようです。(約二日間程度で消えます。)



現在、三十才以上の者は予防接種を受けてなく、小学生(一年生は昨年MRを受けているので一応安心)その他の人は麻疹に対する抗体価低下していることが強く考えられますので心配の方は麻疹ワクチン又はMR(麻疹・風疹ワクチン)を受けて下さい。

成人(中学生以上)の麻疹について

これまでも成人が麻疹にかかると子供に比べ重篤になることが知られていましたが、成人間の流行は少なく、大きな問題にされておりましたが、このところ東京、埼玉などで集団発生があり、学校が休校になるなどして問題になりました。

以前より小児科の学会などではこの問題は討議されていましたが、日本ではやっと昨年から一才と入学前の一回接種になりました。

小田原市などでも子供や大人の患者がぼつぽつ出て来たようのでこの辺でも注意が必要となって来たようです。

当院でも、できるだけ予防接種を用意しますのでご希望の方は申し出下さい。ほとんどの方は自費になります。

衛生関係や、学校関係の方は必要だと思われれます。



5月・6月の休診日

休診 日曜・祭日  
午後休診 水曜・土曜



Eメールを送って下さい。  
norikazu@okutu.jp



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。  
受け付けからのお願い  
月初めには必ず保険証を受け付けにお出し下さい。  
診察券は毎回お持ち下さい。  
編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。